

第6回
台東区基本構想策定審議会

日時 平成30年2月28日

会場 1001会議室

台東区企画課

○出席者
(29人)

会長	懸田豊	副会長	吉川徹
委員	安島博幸	委員	片山泰輔
委員	山谷修作	委員	有村久春
委員	宮崎牧子	委員	西智子
委員	太田雅久	委員	本目さよ
委員	小坂義久	委員	早川太郎
委員	秋間洋	委員	石塚麻梨子
委員	河野雄太	委員	成田多恵子
委員	守屋有晶	委員	山藤弘子
委員	黒田収	委員	小田切満寿雄
委員	早津司朗	委員	二木忠男
委員	富士滋美	委員	安倍智
委員	佐々木聡	委員	牧田としみ
委員	野坂羊子	委員	峯岸由美子
委員	石原喬子		

○欠席者
(1人)

委員	伊藤正次
----	------

○事務局

企画財政部長	佐藤徳久
企画課長	前田幹生
財政課長	酒井まり
情報システム課長	飯田辰徳

(午後 7 時 0 0 分 開会)

1. 開会

○事務局

皆さまこんばんは。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。昨年 11 月以来の審議会ですが、この間、各委員におかれましては、年末年始のお忙しい時期に三つの小委員会に分かれてご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。

それでは会長、進行のほうをよろしくお願いします。

○会長

それではこれより第 6 回基本構想策定審議会を開催したいと思います。本日はご多用の中をお集まりいただきまして、ありがとうございました。開会に際しまして、本日の配布資料および委員の出席状況について、事務局よりご報告いただきたいと思います。

○事務局

—配布資料及び委員会出席状況のご報告—

○会長

ありがとうございました。それでは本日の審議会の傍聴についてお伺いします。傍聴希望者はおりますか。

○事務局

本日は傍聴の申し込みはございません。

○事務局

それでは早速議題に入りたいと思います。その他を除きまして 3 つの議題が用意されています。後ほどご説明がありますけれども、議題 2 と議題 3 は同時にご議論いただくかたちで進めさせていただきたいと思います。

2. 議題1. 分野別の20年後の望ましい姿について

○会長

最初の議題1ですが、分野別の20年後の望ましい姿ということです。これについて事務局より説明をお願いします。

○事務局

—配布資料「分野別の20年後の望ましい姿」について説明—

○会長

ありがとうございました。今ご報告がありましたように、この20年後の望ましい姿を基にして、基本目標をつくり上げていくための基礎的な資料として取り扱っていきます。それぞれの小委員会でご了解いただいているわけですが、小委員会を越えて色々なご意見があるかと思えます。これは基本目標の文章の中で調整していくというように考えていますので、他の分野において、このような点を考えてくれないかというようなご要望があれば、事務局に後ほどご連絡いただければと思っています。全体を通して何かご質問ありますか。

(質問・意見等なし)

○会長

それでは、他の分野につきましては、ぜひ事務局にご意見を寄せていただければと思います。

3. 議題2. 新たな基本構想の体系（案）について

議題3. 将来像の検討について

○会長

次に議題の2と3、新たな基本構想の体系案と、将来像の検討です。それぞれについてご説明いただくわけですが、今日の審議会の中心的なテーマは、この3番目の将来像の検討について、皆さま方の様々なご意見を頂戴したいということです。2と3を含めてご説明いただけますか。

○事務局

—配布資料「新たな基本構想の体系（案）」及び「将来像検討シート」について説明—

○会長

ありがとうございました。資料2の基本構想の体系案は、既に審議会に提出させていたいただいている資料です。確認しますと、1点目は区の将来像を一つに絞り込むこと、2点目は、案ですので、まだ議論が必要かと思えますけれども、基本目標を四つに絞っているということ。そして資料3ですが、将来像に込める思いや考えを本日皆様から頂戴し、それを基にして将来像をつくっていこうと考えています。このような台東区の20年後にしたいという思い、考え方を自由にご議論いただければと思っています。

いかがでしょうか。

○委員

では、新たな基本構想の体系案から意見を言わせていただきます。私は自分の小委員会以外の小委員会もできる限り傍聴させていただきました。色々な意見を聞いてきた中で、全ての分野がリンクしていると感じております。例えば、文化もまちづくりにリンクしている、子育てもまちづくりにリンクしていると思います。しかし、そうは言いながらも基本目標がある程度の枠で分けなければいけないので、「この案が落ち着くところなのだろう」というのが素直な感想です。さらに、そういった議論から考えると、将来像も色々なものがリンクしているので、かえって分けていくことが難しいのかと思います。そう考えると、基本目標が議論されていく中で、一つの将来像にまとめることが良いのかどうかというのは再度議論が必要かもしれませんが、今の段階ではこのような形でまとめるのが、議論を進めていく上では良いのかと思います。

それから、将来像のところも、基本目標全てがリンクしている中で、では何が大事なのかというのを私なりに考えたときに、やはり首都直下地震や、集中豪雨などの自然災害、あるいは、人的な意味ではテロなども話題になっています。また、台東区はまだ木密地域（震災

時に延焼被害のおそれのある老朽木造住宅が密集している地域として、老朽木造建築物棟数率 30%以上かつ、住宅戸数密度 55 世帯/ha 以上かつ、補正不燃領域率 60%未満の地域)も多い。さらに言うと、世界でも有数の観光地を抱えているということで、今後もたくさんの方がいらっしゃるでしょう。日本に来る方々は、他の都市に比べると、「日本は安全安心だ」という思いを持って来る方が多いのかと思います。さらに、ご高齢の方や子供連れの方にも、今後も来てほしい。そのようなことを考えていった中では、やはり住んでいる人にも来る人にも、「安全安心なまち」、「安全安心を提供できる台東区」であってほしいというのが一番です。その安全安心という中には犯罪、防災や防犯だけでなく、例えば障害者の方を含めてのバリアフリーや、多様な方々を含めてのユニバーサルデザインでの安全安心を含め、安全安心なまちであってほしいというのが一番先にくるかと思います。自治体では、安全安心は色々なところで使われていますが、やはりそこが一番の基礎、基本であるような気もするので、ぜひとも将来像に込める思いに入れてほしいというのが一つです。

もう一つは、これはまちづくりのときにもお話をしたのですが、台東区は文化や伝統、産業、人情など、昔から受け継いできたものに、新しく入ってきた人、文化、産業などをうまく取り込み、融合させて現在まで進化してきた区であるという思いがあります。今後もそういった部分がより一層発揮されるべきであるし、発揮した結果が 20 年後であってほしいという思いがあります。そのようなことも含めて、古きを温めて、新しきを取り入れて、進化し続けていくまちであってほしいと思います。サブタイトルを付けるなら、例えば「多様な輝きにあふれているまち」など、そのようなかたちが思いとしては良いのかなと思っています。この 2 点だけ発言させていただきます。

○会長

ありがとうございました。将来像が一つで良いのか、あるいは基本目標のくくり付けをどうすべきか、というのはまだご意見があろうかと思っています。今、委員からは、安全安心なまち、進化融合したまち、そのようなご意見を頂戴しました。

○委員

委員のお話とかぶりますけれども、「安全安心である」、これは第一条件だと思います。それを踏まえたうえで、こうあってほしい将来像ということで言わせていただきますと、全体的に言えるのが、やはり伝統、文化、歴史、観光、そのような言葉が非常に多く出てくると思います。

区議会議員は色々なところで多くの人に出会うわけです。私は 2 年間議長職を務め、台東区以外の方に会う機会がとても多かったです。その人たちは、台東区の魅力を色々と話されます。我々は、江戸情緒ある浅草のにぎわいや、上野の山文化ゾーンもそうですが、このようなものは生活をしていると当たり前として今まで捉えてきました。しかし、これだけ来街者が増えて、その人達が台東区のことを褒めていただくということに接して、改めて台東区

の魅力を認識した次第です。このような魅力のある台東区で仕事ができる、このことにしっかりと誇りを持って、改めて頑張っていこうという気持ちになりました。

職員が初めて入庁される入庁式があるのですが、そこでも「ぜひ台東区を好きになってほしい」、「ぜひ誇りを持って仕事ができるように頑張ってもらいたい」、という話をさせていただきます。そのようなことがワークショップなどでもよく出ていますが、最終的に20年後にもこの歴史や文化をしっかりと継承していかなければいけません。

前に、江戸を研究している大学の教授から、「歴史、文化というのは時代を過ぎると価値観が変わり、いづれなくなってしまう可能性もある。台東区の歴史、文化という資源を、しっかりと意識を持って残していつていただきたい」と言われ、「なるほど」と思いました。そのような価値ある歴史、資源はしっかりと継承していかなければいけません。

一方で、まちは急激に変化をしていきます。変化に対応していかなければいけないということもありますが、一方でそのように守るべきものはしっかりと守っていかなければなりません。誇りある台東区をしっかりと継承していくことと、その変化に対応したまちの発展も必要だと思っています。歴史は年を重ねると、それだけまた魅力も発展しますが、それと相まって魅力ある台東区に20年後にしてほしい、20年後に皆で誇りを持てる台東区であってほしい、そのような言葉を込めた目標にしていきたいと思います。

○会長

伝統文化ということ 키워ワードにして誇りを持つ、あるいは守るべきもの、あるいは変化させていかなければいけないもの、ということ明確に示すということのご意見を頂戴しました。

○委員

委員から、台東区に対する熱い思いをお聞きしました。私はこの審議会委員になって、皆さまと議論を重ねてきて、改めてこの台東区が色々な顔を持っている、非常に懐の大きい台東区であることを気付かせてもらったと思っています。

これまでの審議を振り返ってみると、「外国人や障害者をはじめとした多様性の尊重」が一つのキーワードとして挙げられていたのではないかと思います。この資料1の分野別の20年後の望ましい姿の中にも、「多様」という言葉が頻繁に使われているということで、先ほど委員からも話がありましたが、台東区はこうした多様な人々や文化を受け入れてきたことが一つの大きな強みではないかと思っています。そのような多様性を尊重してきた中で、区民の皆さん一人ひとりが、そのような思いで臨んできたからこの台東区が発展してきたのではないかと思います。

20年後ということで、想像の翼を広げて議論するしかないのですが、さらなる国際化、情報化社会になることは間違いないと思います。そのような中であって、引き続き多様性を受け入れていく、そのような台東区であってほしいと念願をしている次第です。

○会長

ありがとうございました。台東区の持つ強みとして、多様性というものがあるということで、それが国際化や情報化など、大きく環境が変化する中で新たな多様性をどのように持っていくのかというご指摘を頂戴しました。

○委員

新たな体系で、これまで話してきたパートナーシップが明確には記されていないのですが、これはあえてそのようにしていくのでしょうか。私もこの台東区の魅力というのは、新しいメンバーも加えた、古いものも新しいものも取り入れたまちをデザインしていくことだと思いますので、明確にパートナーシップを入れたほうが良いと思います。これからは、外国人に限らず、AI との共存なども入ってくると思います。そのような新たなメンバーとの融合、共存もまちづくりとして意識してつくっているということを明記して、東京の中でも先陣を切ってやっていくというのを、ぜひ書き入れていただきたいと思いました。

何か事情があってこれを入れていないのか、もし入れないのであれば、どのようにこれからパートナーシップというところを組み入れていくのか、そのプランをお聞きしたいと思います。

○会長

委員からはパートナーシップはどのように位置付けるのかというご質問があるわけですが、それについて事務局のほうからお願いします。

○事務局

資料3の2枚目をご覧ください。一番上にパートナーシップ分野の20年後の望ましい姿を改めて載せています。こちらの分野につきましては、こちらの文章にあるとおり、全ての人の人権が尊重され、いきいきと生活し、さまざまな場面で活躍できる地域社会が構築されている、というようなことが書かれています。こちらの分野につきましては、特定の基本目標の中の一分野として組み込むというよりは、この基本目標全体に関わる部分であると事務局としては考えていまして、そのような基本目標全てにわたるような部分につきましては、次回以降になりますが、体系図の一番下にお示ししています、「基本構想の実現に向けて」の中で具体的にお示ししていきたいと考えています。ただ、こちらの、「実現に向けて」の部分につきましては、現在事務局で検討を詰めているところですので、本日はお示しできなくて申し訳なかったのですが、そのような方向で考えているところです。

○会長

パートナーシップだけが抜けているということですね。只今のご説明であると、基本構想

の実現に向けて、という中でパートナーシップを組み入れていくということなのですが、その扱いというのは、現行の基本構想の体系図では文化によるつながりということが書いてあって、要するに基本目標が8つあった中で、それを文化というものでもってそれぞれの基本目標の中身をつなげていくというようなことが書いてあったのと同じような扱いになるわけですか。それとも全くそれとは切り離して考えていらっしゃるということですか。

○事務局

改めてご説明します。現行の基本構想につきましては、文化も一つの基本目標として位置付けられており、それが各基本目標をつなぐというようなかたちを一つの特徴としていました。現在検討している基本構想につきましては、基本目標をある意味「縦糸」と考えますと、基本構想の実現に向けて、というものを「横糸」に置いて、その一つにパートナーシップというところが入ってくるだろうと考えています。そのようなかたちでこの、基本構想の実現に向けて、の中でパートナーシップについては表現をしていきたいと考えているところです。

○委員

今お話を伺っていて、私は良いと思います。パートナーシップが柔軟性を持ったものであれば良いと思います。20年という間に何か固まったものが構築されていると、どうしてもどのように変化しているかが分かりません。例えば、この教育、子育てを見ると、小さなお子さんにとっての安心安全という概念と、我々大人が持っている概念と、もっと年を取った方たちが持っている概念は、自ずと変わってきます。小さい子にとっては、むしろ安心安全というのは、ある意味少し危ないことをし、色々な経験をすることによって自己防衛ができる能力を培う時期であるので、お年寄りと同じように皆助けてしまって、皆かまってあげて、何もしないでも良いようにしてあげる安心安全は、子供にとっては間違っていると思います。

例えば観光のことであっても、子供にとってはこれから学ばなければいけない、あるいは、これからつくっていったり守っていったりしなければいけないものです。しかし、年を取ればそれを皆が今までであったものを楽しめば良いということにもなります。世代、世代によってそれぞれの分野が違う捉え方をしなければいけないので、その場合、子供にとってはこれが大事なつながりを持つファクターになっても、大人にとってはそうでないかもしれないというような、一世代でこれを考えてはいけないのだろうと思います。それがパートナーシップという考え方であったとすれば、私は大賛成です。それで柔軟に対応していったら良いのではないかと考えています。

○委員

委員から世代を越えて様々な施策が講じられていくときに、パートナーシップを別立て

にして、この中に入れ込まないで、横串のようなかたちで検討していくのが望ましいのではないかということです。

○委員

私は毎日外国人の方と交流させていただいています。現在は先ほどお話あった横糸なのかもしれないのですが、私は確実に縦糸になってくると思っています。横糸というイメージは良く言えば柔軟であると思います。また、ネガティブな言い方であると脇役になってしまいます。多様などのような人にでも活躍できるということを考えたときに、確実に区民の中の割合も増えてきていますし、それは縦糸になっていくのではないかと思います。20年後を考えた時、横糸の中の柔軟性で議論を進めていくほうが良いのか、あえて縦糸にして、きちんと議論せざるを得ない議題として入れていくか、私は外国人びいきなところもあるので、そのように推してしまうのですが、皆さまの意見を聞けたらありがたいです。横糸ということで柔軟性を持つべきなのか、外国人に限らずですが、パートナーシップを縦として考えていったほうが良いのかということです。

○委員

それぞれの方がイメージするパートナーシップが恐らく違うのであって、事務局で考えているのは、パートナーシップというのは目標にするのではなく、手段として例えば文化でも産業でも、おっしゃるような場面が出てくるわけで、それをパートナーシップというかたちで具体的な施策を講じる手段として進めていこうということです。先ほど委員がおっしゃいましたが、パートナーシップを目標に置いてしまうと、非常に固定されたイメージの固定された施策というものに限定されてくるのではないかと、というご意見だと思います。事務局のほうではいかがですか。

○事務局

先ほどの私の縦糸、横糸の表現があまり良くなかったのかもしれません。会長からもご指摘がありましたとおり、パートナーシップは現行の基本構想では図の左下にあるとおり、協働、人権、都市交流、在住外国人支援というようなさまざまな分野、取り組みについて、一つのくくりとしてパートナーシップという言葉を使わせていただきました。今回の検討にあたってこの体系の中でそれぞれの分野に分けて議論していただいたという流れがありましたので、パートナーシップというところでまとめてはいますけれども、やはりパートナーシップは外国人との共生なども含めて、それも一分野に関わるというよりは、全ての基本目標に関わってくる部分であろうという理解をして事務局としては考えたところです。決して基本目標より下、上という議論ではないと思いますが、基本構想の実現に向けて非常に大事な部分であるというところはしっかり表現していきたいと思っています。

○委員

私は、体系のかたちで気になっていることがあります。今回将来像と基本目標という2段階構えというところなのですが、今の議論も踏まえてですけれども、基本目標というところが手段になってしまうのはもったいないと思っています。そこはきちんとした目標、目的、方針にする必要があるかと思っています。つまり、どうやってやるのか、あるいは仕組みをつくるというような議論で終わってしまうのではなくて、今までの小委員会で議論されてきたような望ましい姿を踏まえたあるべき姿、将来像をブレークダウンしたものというかたちになってほしいと思っています。

なぜかという、前回の基本構想の体系で、基本目標と書かれているのが、どうしてもやり方、方法、施策といったところに落ちていってしまっているように見えます。そうではなく、もう少し上のレベルの目標というかたちで立てていただく必要があるかなと思っています。

個人的に目標という言葉にそもそも違和感があります。目標は定量的あるいは定性的であって、きちんと効果が測定できないと目標ではないと私は思っています。そのような意味では少し違うのですが、これはこれでこの場では目標とすることによって了解しています。そうしないと、実現ということが何をもちて実現したのかが分からないというところで、一番下の横軸のところですが、そこに実際にどうなっているかというモニタリングを入れていただきたいと思っています。それは、「できていないから批判する」という話ではなく、できてないのであれば、何がどう違うのかというところを見て改善していくというサイクルを回していくためにモニタリングは絶対に必要なので、そこは入れていただきたいと思っています。

それから、区民として申し上げると、やはり文化、教育、福祉という分野についてはとても重要だと思っています。台東区の魅力、強みというところについては、文化がある、そのようなところが強みだと思っているので、そこをぜひ打ち出していただきたいと思っています。

それから教育については、私は小さい子供がいて、20年後のことなど誰も分かりませんから、変化が激しい時代で対応できる大人になっていってほしいと思っています。そのようなところを成長できるような環境として台東区があってほしいと思っています。

私の親がまだいるのですが、今後だんだんと年を取ってきて、といったときにどうやっていくのか、今後の暮らしといったところで福祉といったところもぜひ、多世代が一緒に暮らしていけるような環境として台東区があってほしいなと思っています。

○会長

委員がおっしゃったように、基本目標が手段のレベルか、もう少し高次の目標、しかもそれを測定できるかという問題もありますけれども、そのようなことの観点というのは今後基本目標をつくっていく上でご注意いただければと思います。

○委員

補足ですが、目標が必ず測定できないといけないということを申し上げるつもりではなくて、私の考えとしてはそうなのですが、今回の目標としてどのようなものとして置くのかということを確認にさせていただいて、気を付けていただければと思っています。

○委員

とてもよくまとめていただいたかなと思いました。ただ、資料3の1、左下の観光のところの記述を見て、少し違和感を持ちました。「観光地が形成され区民生活の一層の向上が図られる」となっていますが、私のイメージではむしろ逆かなと思います。非常に素晴らしい区がつけられているからこそ良い観光ができるのではないかと思います。先ほどのパートナーシップの問題とも関係するのですが、教育の問題や文化の問題、都市の問題、安全安心、それからこの区を構成する多様な人たちのネットワークやパートナーシップがきちんとできて、地域のまちづくりの理想形のようなものができるからこそ、そこを訪れる観光客の人たちとの関係が良いものになってくる、そのような人たちが台東区のことを好きになるし、リスペクトする、尊敬し信頼する関係がつけられていくということだと思います。この書き方であると、今のトランプ政権のアメリカのようなイメージがあって、外交でも通商でも全てのものがアメリカ人の利益のためにあるというような、全てのものが台東区民の利益にあるのではなく、台東区民が理想的な偉大な地域をつくることで、外国の人たちにもそれを尊敬してもらおうということだと思います。

実は観光客は外国だけではなく、東京ですから国内全国からも来ます。今東京と地方の関係は必ずしも良い関係とはいえませんが、北海道や九州や東北地方から来た人がこのような町は良いと思ってもらえるような台東区になることが大切です。どうしても自治体であると外交関係と内政を区別して議論することはないのですが、台東区は全国、世界中の人たちが訪れるところなので、外交的な観点での目標設定もしても良いのかと思います。世界中、国内中から尊敬され信頼され、好意を持たれる区をつくる、これは東京にとってもとても大事なことであるし、日本にとってもとても大事なことで、その責任と自覚を持っている区であるということが出てくると良いと思います。アメリカが偉大な国になることによって世界を平和で幸せにしてあげると、少しやり過ぎてしまうこともアメリカはたまにあります。それぐらいの思いで、観光によって区民が得するというよりは、むしろ素晴らしい区をつくることで観光がより対外関係を良好にしていく、対外は外国だけではなく、東京と地方も含めて、そのようなかたちで持っていくのが良いのではないかと思います。

○委員

基本目標の4つと、それからそれぞれ将来像の並びについては良いのかと思っています。私の専門は観光ですが、観光が最後にあるのも良いかなと思っています。

委員がおっしゃったことに基本的に賛成をしていますが、この短いところでそのことを書くのがなかなか難しいと思っています。全体を見てみると、先ほどあまり気が付かなかったのですが、観光のところには、「区民生活の一層の向上が図られています」と書いてあります。観光はそのようなこともあると思いますが、これは何か少し説明がないと、観光と区民生活の一層の向上というのは少し結び付きにくいかと思います。

それから、今度はまちづくりのところを見ますと、「誰もが誇りや憧れを抱き」と書いてあり、訪れたいと思える持続可能な都市、訪れたいと思うということは観光のところかと思えます。私は、「区民生活の一層の向上が図られています」という部分を、例えば、「世界から多くの人を訪れるまちを誇りに思っています」というようなかたちで観光を書き換える、それからまちづくりのほうは、「持続可能な都市が形成されるとともに、区民生活の一層の向上が図られています」というように書き換える、交換をすると少しすっきりするかなと思いました。

○会長

ここはそれぞれの分野別でご議論いただいて、20年後の望ましい姿を、主として最後に書かれて、結論めいたところを抜き出してつくっているわけでありまして、これが前面に出てくるということではなく、少なくとも将来像に込める思いや考え方を導くための一つの素材としてご理解いただければと思います。これが全て基本目標であるとか、そのようなところで文章を重ねて基本構想の中で示されるというわけではないということです、分かりづらい文言のところがあればご容赦いただきたいと思います。

○委員

パートナーシップでこの基本構想の実現に向けてという横糸と縦糸の話が出ましたけれども、今のつくりでいうと、事務局の努力はあったとしつつも、やはり前回の現行基本構想の体系と変わらないのではないかとというのが私の率直な意見です。パートナーシップを手段と捉える、あるいは行政経営をこの下に入れれば、ほぼ同じになってしまうのではないかとというのが思ったところです。ですから、この基本目標のところの、文化、産業、観光、まちづくり、防災防犯、環境、健康、福祉、子育て、教育、生涯学習というのは取って、やはり4つでも5つでも、あまり多くては良くないのですが、この基本目標と呼ぶのかどうかは別としても、やはり先ほど観光とまちづくりの問題でのクロスの部分でいえば、どちらを大事にするのかといったときには、先ほどの委員の話は非常に説得力があります。逆に言うと、まちづくりというので、では基本構想の実現に向けての横糸にできないかという議論にも十分になるわけです。ですから、そのような点では、ぶち壊すというとまた怒られますが、やはり壊さないで新しいものが生まれてこないのではないかと思います。

この辺はどうしても事務局は、日々それぞれ専門分野でやってきた自分の分野もあれば、企画というところで、トータルでやられていますけれども、どうしても行政ですからそうな

るのですが、そこを壊すのが私たち委員の役割ではないかと思えます。そのような点では、事務局にたたき台を出してもらうのは仕方ないにしても、パートナーシップが本当に手段で良いのかというと、私はそう思いません。それそのものが基本目標の一つにすわっても良いくらいの台東区になってきています。そのような点では、家族で日本に移り住む人はあまり歓迎しない、しかし専門的などころで来る人は活用したい、そのような発想になってしまいます。そうではなく、一緒に地域に住む、委員が外国の方の支援をやられています、そのような点では本当に同じ地域の住民として、一人ひとり個人としてきちんと尊重されるような住み方、まちづくりの参加の仕方、これは手段ではないと私は思っています。そのような点で、一度この縦糸というものを三つ編みか四つ編みにしていただけないかと思えます。そうすると基本目標の手段という考え方も変わってくるのではないかという感じがしています。では案を出せと言われても困りますが、以上です。

○会長

恐らく今の議論は、文化や産業、観光など、主要な分野を捉えて、それに引っ張れるということがあろうかと思えます。恐らくここで基本目標をつくっていくときには、たまたまここは文化、産業、観光を中心にしますけれども、パートナーシップなど色々な横軸の絡みで、非常に抽象化した目標が出てくるわけだと思えます。これは前回と変わらないのではないかとと言われても仕方ないくらい変わらないのですが、それは少なくとも組織全体を変えない限り、組織の変革をしないとできないわけです。それを横軸の基本構想の実現に向けてというところで補っていくというのが多分事務局の案ではないかと思えます。これも課題として、事務局で取り扱いいただければと思えます。

○委員

資料3の検討シートのところで、思いや考えというところに4つほど例が挙がっていますが、どれを見ても基本にはやはり「人」が関わると思えます。台東区の人というものをどのように私たちが位置付けていくか、そして「人」と「まち」が一つの非常に大事なポイントかと思えます。ですから、先ほどパートナーシップ、横軸、縦軸の議論がされていますが、私は各小委員会でそれぞれ検討した中身を尊重して、今までの流れも台東区の歴史や行政の流れもあると思うので、文化の系列であるこの図でいうとブルー、こちらのグリーンのところ、ピンクのところ、黄色のところ、四つに分かれています、それらを単独に置いているから分かりづらくて、申し上げると、思いや考えをどのようなかたちにするかがとても大事なことだと思えます。少し恐れ多い気がしますけれども、もしよろしければ、私の頭の中にあるものをお示ししても良いのですが、要はこの11個の項目をパートナーシップも含めてどのように構想するか、図柄の表し方から入って、それらの図柄に合うような目標はどのような表現、言葉が良いのか、というような位置付けが良いような気がします。これが単独にばらばらにあるから、私たちはどうしても今の議論にあるように、健康や福祉が全部に関

わるし、子育て、教育は欠かせない問題で、そのような意味では文化やまちづくりは台東区では大事にしてきてしたし、そのベースとして産業や観光が成長したからそうなったという、そのような議論が非常にあって、大体その辺は皆さん共通理解ができているように思っています。これを単独に並べておくのではなく構造化できないか、先に図柄を考えていただいて、このような図柄の位置であればこのような目標があるだろうと、そのような議論を試みたらどうかと思うところです。

先ほどのぶち壊すという話と少し重なりますが、私も図柄を壊す中で考えていく、少なくともこちらにあるような今まで八つあって、こちらは、今度は大きく四つにしているわけですが、このような縦型はやめたほうが良いのではないかと思います。率直に申し上げます、図柄を変えることが必要なのではないかと思います。

○会長

委員からのご提示で、全体像がまだ合意されていないから、多分事務局の考えていることと違うのではないかという印象があるわけです。文化とまちづくりを合わせて、横軸で文化とまちづくりと健康を合わせて、多分委員のご議論はそのようなかたちで括り付けていくべきだろうということになってくるのだろうと思います。

○委員

言葉の話ですが、先ほど縦糸と横糸という表現がありました。話が縦軸と横軸になっています。座標軸なのか織物なのかで全然違うイメージで捉えることになってしまうので、どちらかに統一していただきたいです。

○事務局

現行の基本構想でもそうなのですが、この将来像、基本理念、将来像、それから基本目標、こちらを実現していくためには、この後施策というものをつくって、今回の審議会にも施策の方向性についての諮問もさせていただいてまして、今回の20年後の望ましい姿をつくる中で、その辺も含めて議論をいただいているところです。その辺の、この後の基本構想に続く長期総合計画、それから行政計画につながる大きな流れというもののご説明が不十分だったかというところは反省させていただきたいと思っています。その点につきましても、次回に全体の体系がこうなっているということをまたあらためてご説明させていただきたいと思っています。

それから、今までと変わらないのではないかというご意見は、非常に重く受けとめてはいますけれども、そのようなその後の体系全体の話がありますので、その辺も含めて次回ご説明させていただきたいと思っています。

それから、基本目標をどうやって表現していくかということにつきましても、次回全てのこの基本目標についてはお示しをさせていただけるようになっていきますので、そちらの中

でご議論いただければ幸いです。

○会長

委員がおっしゃった織物的な糸として考えていくことについてはどうですか。

○事務局

私が例として申し上げたもので、イメージとしてはこの基本目標を実現していくために、全分野に関わる部分というイメージとして横糸という言い方をさせていただいたもので、特に織物をつくるためというイメージで申し上げたというよりは、基本目標を横につなぐイメージ、そのようなかたちで使わせていただきました。

○委員

会社経営でそのような言葉があるものですから、会社の方針を何本か決めるのは、それは動かさないけれども、横糸は柔軟性を持たせていく、会社の経営を織り上げていくものだという、経営は縦糸と横糸であると言っているのは本田技研工業の創立者ですが、そのような話がありました。横軸と言ってしまうと、ぶつぶつ切れてしまって、そのときそのときにいろいろなことを変えていってしまいますが、横糸というずっと織りながら 20 年先まで見据えて織っていくというイメージを私は持っています。

○委員

健康福祉分野の基本目標を考えたときに、資料 3 では、「全ての区民が安心して健やかに暮らしています」ということが基本目標の考え方として書いてあります。例えば防災防犯であれば、「災害に強いまちづくりができています」という目標が良いと思いますが、健康福祉について考えると、これも小委員会が出したのですが、健康で暮らしていますということはありませんと言いました。医療福祉分野でいう 2025 年問題、2040 年問題があります。2025 年は団塊の世代 800 万人が後期高齢者となって、超高齢化のピークを迎える第一段階です。それを何とかしようということで、地域包括ケアシステムの構築がいられています。今、2040 年問題が出ていて、2040 年問題となると、これは全国的に見て高齢化のピークを迎えるということになります。2040 年というと、ちょうどこの基本構想が考えている 20 年後のことです。ところが、この台東区を含む東京都心部においては、それが全国と違って、高齢化のピークではありません。ピークがそこから始まっていきます。それを考えると、この健康福祉分野でのこの 20 年後の目標は、皆が安心して健康に暮らせるように目指している、そのような気持ちを共有しているということが目標になるのではないかと考えると、ここの基本目標は全ての区民が安心して健やかに暮らせるよう、お互いを尊重しながら、多世代共生をしながら目指していく、目指すということが目標になるかと感じます。

それから、先ほどから縦串、横串という話が出ていますが、医療における多職種連携の考

え方の中に、患者さんが中心となって、そこに医者は看護師、薬剤師、歯科医師などが放射状につながっている、放射状につながっているその多職種がまた円形につながっているという図を描きます。この将来像の下にぶら下がっているというよりは、将来像の基本的なものが真ん中であって、そこにいろいろなものがぶら下がって、それが円形につながると僕自身の頭の中では考えやすいかと思います。

○会長

今のご意見、特にワーディング（言い回し）で健やかに暮らします、というのが一つの実態とはなり得ないわけですので、その辺も加味して、そこでパートナーシップという横糸が入ってくるとまた違ったワーディングになるのかという思いがしています。健康福祉分野は特にその点をご注意いただければと思います。

○委員

はじめにこのパートナーシップ分野を小委員会に振り分けたことが失敗です。それが誤解の元です。これは全ての分野に共通するものであって、パートナーシップは先ほど事務局が言ったような位置付けであるから、そこは少し最初から誤解があるのではないかと思います。

シェーマ（図式）の話は、委員がおっしゃったように僕もそうなのです。委員と同じようにこの基本目標の縦列ではなく、今は、この前のオリンピックのシェーマもそうですが、皆このような丸い感じでいきます。そのようにしたほうが、台東区としては恥ずかしくないのではないかと思います。

最後に事務局がやっと言ってくれましたが、基本構想を何に使うのかということを最初に委員に提示しないから皆が困っています。この基本構想をつくったら何に使うのか、先ほど委員が言ったような計画をこれからつくるわけでしょう。それから目標が出てくるわけだから、前段階の大きなものなので、基本構想をこれからどう使おうかということはまず明示すべきだと思います。

○会長

示されたときもあったのですが、それが記憶に残らないくらいたくさん資料が出てきました。ただ、委員がおっしゃったように、このような縦で良いのか、中心に将来像があつて、周りにこのようなものがあつて、これとこれとで基本目標が出てくるというようなイメージもつくれるのかという気がしますので、ぜひご参考にしてください。

○委員

今こちらで策定した基本構想がこれから長計などに反映されていくということなので、基本構想であるからこそこのようなスタイルになったのかというのは、お話を聞いて分か

りました。たくさんの子育て家庭や子供たちと私は普段接していますので、その子育て家庭が台東区で子供を産み、あるいは子供たちが大きくなって、外に出て行ってもまた戻ってきたい、あるいは子供達自身が台東区の歴史や文化の資源に誇りを持っているというのは本当に感じています。あるからこそ、今までの他の委員の方からの話もあるので、基本構想というものの考え方がずれているのかもしれませんが、台東区というまちがあって、その下に住民や子供たちや色々な仕組みがあるというのではなく、そもそもの将来像が台東区に住んでいる、あるいは訪れた人のようなかたちになっていったら、先ほどの横串を含んで大きな視野に立てるのではないかという気がしています。

○副会長

一言だけ申し上げます。この資料3のこれですが、もともと事務局が作った資料は、本当は真ん中にこの四角があって、その周りをいろいろなものが取り巻いていました。ところが、それがどのように取り巻くかというのが決め切らないという話になって、前のページのこれを含めて少し体系化するという話に、私が申し上げてしまったら、先ほど委員がおっしゃったような、とてもトラディショナル(伝統的)な感じに仕上がってしまったということで、事務局はややアバンギャルド(前衛的な)なものを考えていた時期が恐らくありました。それは事務局の名誉のために申し上げます。

○委員

先ほどからの議論をお聞きしていて、やはり資料3と資料2の間に、多分チャートがもう1枚必要なかと思います。3で挙げていらっしゃる将来像に、思いや考え方というところをもう少し構造化されたものがあつた上に、その上の基本目標や将来像がある姿がしっくりくるのではないかと考えています。その間のものがどのような姿になるのか、縦糸なのか横糸なのか、あるいは何かそれがいろいろな構造化されたものだと思うのですが、そのようなかたちに整理されるとしっくりくるのではないかと考えました。

○事務局

今回の進め方としては、事務局としてはまず将来像にどのような思いを込めたら良いかという委員さんの率直な意見をお伺いしたかったというところで、一応仮置きの体系の下でどのような将来像が良いかというご議論をお願いしたかったというところでした。次回につきましては、先ほど来出ているとおり、基本目標をどのようなかたちにしていくのか、というところの案をお示しさせていただくと、先ほど申し上げたとおり、基本構想それから長期総合計画、行政計画、どのような体系になっていくのかというところの理解をいただきながら、そのようなご意見をいただきたいと思いますと考えているところです。

○会長

事務局はもう1枚シートがありました。しかしそれは、まだ仮置きの段階の資料であって、基本目標をつくっていくために、どのような要素を入れてというところがあったわけですが、まだ庁内で全てのこの4つの体系が4つの基本目標全て今つくるというわけにはいかないの、仮にということで作られたものであって、かえって混乱するのではないかとということで省いていただきました。次回はもう少し委員がおっしゃるようなかたちでご提示できるかと考えています。いかがでしょうか。

○委員

私はこちらのこのペーパーの体系の図を見ていて、現行の体系、それから新たな基本構想の体系で、この体系という言葉に私たちはとらわれ過ぎではないかという気がしています。結論から言うと、「体系」という言葉を取ったらどうかと思います。体系という言葉があるから縛られる気がします。むしろここで我々が今議論して考えようとしているのは、20年後の台東区のこの状況、人の状況、まちの状況を構想しようではないかという考え方があって、基本構想で止める言い方でも良いし、別な言葉を使う、基本構造と言っても良いと思います。固い言葉かもしれませんが、新たな基本構想、あるいは新たな基本構造という名称を使って、体系という言葉を使ったら良い気がするのですがいかがでしょうか。それがあつために、縦、横という議論になるような気がします。もう少し柔軟なかたちにならないかと思っています。いかがでしょうか。

○事務局

今回現行の基本構想の体系との比較という意味で体系という言葉を使わせていただいています。また、先ほど来申し上げているとおり、この基本構想に基づいて、長期総合計画、行政計画、こちらもある程度施策あるいは事業を体系的に構築していくものですので、言葉をどうするかというところは私も妙案は浮かびませんが、イメージとしてはそのような計画の構造になっているところのご理解はいただいております。

○会長

全体的に基本構想を作成するときに、基本構想の体系というかたちで示されることは前回もなかったわけですが。多分前回も体系という言葉は、仕組み、と表現していました。必ずしもその言葉にとらわれているわけではなくて、議論を進める上でこのような構造でやりたいということです。

○委員

今色々な方の意見を聞いて思ったのですが、これは私が思ったことなので違うのかもしれませんが、私はどちらかというと、今までの基本構想がありますが、ずっと区議会をやっているんで、その基本構想はこのようなものだという思い込みがありました。今の議論を聞いていると、例えば基本理念、ふんわりした本当の理念というものを、今回基本構想そのものではなく、理念のようなものをつくろうとするのか。それとも、長期総合計画をつくるので、それよりもう少しだけ計画に近いものもしっかりつくっていかなければいけないのか、というところの共通認識がないのだと思います。ですから、「体系論がこれで良い、悪い」、「横軸だ、縦軸だ」という話になっていくのだと思います。理念だけのもの、日本の憲法はそうだと思いますが、理念法なのか、それとも法律も一緒になっているのかというところの議論になっていると思うのですが、理念だけを語るのであれば体系は要りません。幾つかこのようにしたいと言うだけで良いです。それを、長期総合計画をつくるにあたって、もう少しだけそれをブレイクダウンして、計画につくりやすいものの一つの指針をつくっていきなるとなると、ある程度の体系論を決めておかないと、長期総合計画に結び付いていけないので、そのようなものが必要という話になるのだと思います。

そもそも今回基本構想をつくり直そうといった時点で、それこそそこはどこを目指してつくるのかという共通認識がないと、この議論でなかなか進んでいけないのではないかと考えています。その辺は、事務局はどのように考えているのか、良い機会なので話してもらって良いですか。

○事務局

第5回の審議会で体系の点についてご説明させていただいた際に、基本構想の基本理念につきましても、将来像に含めて書くというところのご説明をさせていただいています。また、本審議会に対しましては、基本構想および施策の方向性というものの諮問をさせていただいています。今委員からご指摘のありました、より具体的な施策につなぐためのものです。基本構想の将来像、基本目標を具体的な施策につないでいく施策の方向性というものも含めて審議会に諮問させていただいています。ですので、その辺も合わせて、次回ご説明させていただいた上で、将来像、基本目標、それから施策の方向性などについても議論をいたしたいと思います。

○委員

その体系図というか、どこまでを具体的に落とせば良いのかというところが少し分からなくなってしまったので、企業のビジョンなのか、それとも理念なのか考えていました。具体的にどこまで落とし込むのだろうかとか色々考えていましたので、ぜひ整理をお願いしたいと思います。

将来像に込める思いや考え方のところでいうと、皆さんおっしゃっていただいています

けれども、二つは必ず入れていただきたいと思うのが、多様性の尊重というところです。これはきっとパートナーシップにも通ずるものだと思います。色々な人たちが色々な生き方で良い、幸せに暮らせるというところを将来像に込めていただきたいというところです。それからもう一つがシビックプライドという考え方です。自分のまちが好きで誇りに思う気持ちが全ての区民に育まれていると、全ての分野において様々な良い影響があるのかと思います。

○会長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

それでは、将来像を示して基本目標に、完璧なものではないですが案として次回お示しいただくわけですが、皆さま方のご意見は共通するところがあるのかと思います。安全安心なまちである、あるいは多様性が尊重されるまち、また伝統文化や区民が誇りを持てるようなまちであること、そのようなご意見が出ていたかと思います。そのようなことを踏まえて、ぜひ将来像の案をおつくりいただきたいと思います。

○委員

余談になりますが、商工会議所は一つのキーワードを持っています。おもてなしをモットーとしています。おもてなしというのはご承知のとおり、相手に好意を持って良くなってほしいということです。これは産業にも文化にも観光にも、全部通用するキーワードです。そのような意味からいうと、おもてなしには色々意味がありますが、表も裏もないということもありますし、一つは積極的にお客さまを門の外まで行ってお迎えするという気持ち、これもおもてなしだということです。文化、産業、観光、まちづくり、防犯、全ておもてなしの心を持つということ 키워ワードにさせていただくと、色々なことが非常に解明し、また進みやすいのではないかと思います。商工会議所としては、そのかたちを現在取り進んでいることをご報告申し上げます。

○会長

ありがとうございました。その気持ちというのは当然入ってくるはずだと思います。よろしくをお願いします。他に何かありますか。

それでは、これらの皆さま方のご意見を踏まえて、区の将来像を作成して、案として示させていただくということです。

4. 議題4. その他

○会長

以上1、2、3はご審議いただいたということで、4番目にその他というものがありますが、その他はいかがですか。何かありますか。

○事務局

—次回審議会の開催ならびに今後のスケジュールについての説明—

5. 閉会

○会長

ありがとうございました。中間のまとめ案についてというもの、この審議会あと3回の中で、中間のまとめ案をつくらなければいけないという非常にタイトな日程になっています。本日ご意見いただけなかった皆さんも何かありましたら、事務局のほうにご連絡いただければ、そのようなことも加味して3月23日ですが10時からということで予定されていますので、よろしくご出席お願いします。本日はどうもありがとうございました。

(午後8時40分 閉会)

以上